

一般質問を行いました。

1、発達障がいへの対応について

①知事の思いと体制整備について

（溝口）最近、発達障がい者は増えているものの、その特性が周囲にはわかりにくいための社会的な理解不足がある。そのため支援が遅れがちになる傾向がある。しかし、適切なサポートや教育を行い、健全な育ちを支えることによって、「障がい」による生きにくさを少しでも軽減できるとされている。知事のマニフェストでも四力年戦略でも、支援に取り組むことを明確にされている。そこで、知事の発達障がいにかかる思いについて、また、今後四力年の間に、総合的に対応する窓口、例えば発達障がい支援課などを新設するべきではないかと考えるが、知事に尋ねる。

（知事）

本年四月には、障がい者支援課において、総合調整を担う専任の組織を設けた。今年度中に発達障がい者支援基本指針を策定する。発達障がいのある方が自立した日常生活と社会生活を営むことができるよう、ライフステージに応じた切れ目のない支援に取り組みたい。

②庁内各課と関係機関との連携について

③教員の人材育成と連携について

（溝口）

ライフステージは、乳幼児期、就学期、就労期がある。各ステージにおいて、支援の方法は、当事者に応じたものであることが必要である。だからこそ、総合的な窓口が重要である。もう一つ重要なことは、総合的支援を行うことである。県では関係組織が構成する発達障がい関係連携会議を設置して対応しているが、もつと連携を深めることがカギとなる。健康福祉部長の決意を尋ねる。学校教育の通常の学級で学ぶ発達障がい児童生徒に対する指導支援の充実のために、通常の学級の教員の人材育成をどのように行うのか。また、発達障がいへの指導支援も含め特別支援教育を今後どのように進めるのか、併せて、関係部署との連携についても教育長に尋ねる。

（健康福祉部長）

発達障がい者の支援については、乳幼児期から成人期まで幅広い総合的な支援と関係機関の連携が必要である。支援は、福祉のみならず、教育や労働など幅広い分野に及ぶが、保育や地域での生活支援を担当する市町村や関係機関、あるいは庁内の関係部署間の連携体制を強化しながら、域全体に点在しており、ビジネスモデルの具体化については、地域全体で取り組むにふさわしい課題だと思う。県では、新たに「広域連携プロジェクト推進事業」を立ち上げ、複数市町村などが連携・協働する広域的な取組みに対し、財政支援や人的支援などにより総合的に支援していく。今後、県としても、市町村や地域の方々としつかりと連携して、この課題に取り組んでいく。



■葺き替え修復された青井阿蘇神社の楼門・幣殿、および保存修理事業が完了した岩屋熊野座神社



4、球磨川流域の治水対策について

がら、健康福祉部が総合的な窓口となり、支援を更に進める。

（教育長）

全ての教員の専門性の向上が急務なので、更なる研修の充実及び支援体制の強化を図る。今年度、特別支援教育課を新たに設置し、四月に、「特別支援教育取組の方向」を新たに策定し、全ての学校に周知し、推進を図る。関係部署との連携については、教育と福祉の連携を更に密にしながら、特別支援教育の推進に取り組む。

2、八代港への外国クルーズ船の誘致について

（溝口）

八代商工会議所が中心となつて人吉商工会議所や地元自治体と連携して、外国クルーズ船の誘致活動を展開した結果、イタリアのクルーズ船が、本年十月二十日の「第二十五回やつしる全国花火競技大会」に八代港に寄港して、二千人を超す中国人観光客が入国して、花火大会を初めとした観光を楽しむとのことである。八代港への外国クルーズ船の寄港は、県南地域を中心とした観光振興・地域振興に貢献するものと思われる。県としては、今回のクルーズ船寄港をどう観光振興に結びつけるのか、また、今後、外国からのクルーズ船誘致にどのように取り組むのか知事に尋ねる。

（知事）

新四力年戦略の中では、アジアをターゲットとした誘客戦略を強化するが、観光クルーズ船の受入れ実現に向けた取組みもその一つである。今回の大型クルーズ船入港では、八代市や人吉市の関係者と連携して、日頃体験できない心のこもったおもてなしを行い、熊本の魅力を楽しんでいただけるツアーにしたい。今後は、入国管理業務の円滑化に関する国への要望などに力を入れる。また、上海事務所を有効に活用しながら、運航会社や旅行会社への訪問や情報提供を行う。



八代港に寄港予定の豪華客船 コスタ・ビクトリア号

3、球磨人吉の歴史的建造物の保存と活用について

①連絡協議会のあり方について

（溝口）

県教育委員会では、球磨人吉をモデル地域にした「文化財広域連携推進事業」に取り組む、平成二十二年から平成二十三年度にかけて、この地域に残る古社寺群を対象として、観光や地域振興等に活かすことを前提に、学術調査及び現況調査を実施した。その結果、古社寺七十三件のうちの三十一件が五年以内の修理が必要で、早く修理しないと文化財としての価値が間がかかる。このため、ソフト面の防災対策をしっかりと行っていく必要がある。追加策を含めた「直ちに実施する対策」については、できるだけ早い時期に「検討する場」を開催し、取りまとめた。また、対策の完了時期については、国から計画が示されていないために、お答えできない。

5、道徳教育用郷土資料「熊本の心」の活用について

（溝口）

平成二十二年六月定例県議会での私の質問により、「熊本の心」の約二十年ぶりの改編版の発行が実現し、非常にうれしい。この本は、大人が読んでも、郷土熊本の伝統と文化の良さを再発見、再認識し、郷土熊本の人々の偉業に改めて感動を覚え、とてもためになる内容である。道徳教育日本一を目指し、その取組みを県民運動として広げる一環としてこの本を販売するつもりはないのか。また、県内の各小中学校の道徳教育においてどのように活用していくのか、教育長に尋ねる。

（知事）

「熊本の心」の販売等の方法について、知事部局とも連携しながら、スピード感をもって検討する。道徳の時間に計画的な活用が図られるよう指導するなど積極的に行いたい。さらに公開授業、「親の学び」講座での紹介等をおし、家庭や地域社会への啓発活動も行う。